



ユーラシアンホットライン

VOL-21

2000年12月

ホットライン

＜クラブニュース＞NPO法人化を申請/クラブの今後の活動方針/「井出・ソヤラ両君と留学生の門出を祝う会」を開催＜催し物情報＞言語文化塾第2期生を募集中/親睦旅行計画のお知らせ＜ユーラシア交流情報＞パラミギンさんがサハ共和国に帰国/モンゴル子供発展センターに寄付/元留学生チームベクさんが来日/寺澤潤世僧侶支援について＜会員消息＞ウズベキスタンの山本さんからの便り＜他団体情報＞日本サハ協会が解散/シルクロード倶楽部が忘年音楽祭＜クラブ短信＞クラブのホームページ刷新に向けて/サポート会員・ボランティア会員を募集中

「キルギス文化フォーラム」を新年に開催

トビック

昨年日本人拉致事件ですっかりイメージダウンしたキルギスタン。そんな折り、自国の素晴らしさを知ってもらおうと、短期留学中のアイダさん(元留学生でクラブ協力者のリスベク氏の姉)を中心にキルギスの若者達が企画しました。歴史や文化の講演に加え、歌・踊り・ビデオとスライド上映・伝統的なお菓子の試食なども織り交ぜて楽しい催しにします。キルギスの素顔に触れてください。

とき・2001年1月14日(日)午後2時～4時 / ところ・江東区文化センター視聴覚室(地下鉄東西線東陽町駅下車) / 会費・千円
(財)江東区地域振興会・江東区文化センター・ユーラシアンクラブ 共催 (参加申し込み・問い合わせはクラブ事務局まで)

＜クラブニュース＞

■NPO法人化を申請

クラブでは特定非営利活動法人(NPO)化に向けて今年より準備を進めてきましたが、9月11日に無事東京都庁において申請を済ませることができました。来年1月には認可の見込みです。

■クラブの今後の活動方針

NPO法人申請を踏まえ、クラブでは将来的な構想についてこれまで話し合いを続けてきました。いくつかの事業はすでに実行段階に入っています。今後は初心に立ち返り、ボランティアの協力を中心にすえて、個々の企画を実行委員会方式で運営していく計画です。クラブの発展のためにもボランティア登録をお願いいたします。

法人化後の初年度(法人成立の日から2001年3月末まで)の事業としては、「ボイス・オブ・ユーラシア事業」「言語文化塾事業」「ユーラシアンフォーラム事業」を予定しています。このうち「ボイス・オブ・ユーラシア事業」は、インターネットの普及に鑑み、コンピュータ・ネットワークを通じてユーラシア各地の協力者と通信し合い、ユーラシア情報を共有して相互理解と交流を活性化・促進していくことを目指します。まず、メーリングリストとメールマガジンを立ち上げ、将来的には出版物の発行を目標としています。次年度からは、ユーラシア諸地域の民族音楽コンサートを催す「サウンド・オブ・ユーラシア」事業も予定しており、クラブ事務局ではすでに江東区の文化ホールとの間で話し合いを進めています。ご期待ください。

■「井出・ソヤラ両君と留学生の門出を祝う会」を開催

去る11月3日、クラブ創設以来のボランティアスタッフである井出晃憲さんと内モンゴルからの留学生で琵琶奏者でもある蘇雅拉(ソヤラ)さんの結婚、さらには今年結婚した留学生カップルらを祝福する、手作りの心温

まる集いが池袋の東京芸術劇場で開かれました。参加された産経新聞記者の福島香織さんが書かれた記事が、さっそく翌日の紙面を飾りました。

…ザ・パーティー… 3日・少数民族留学生結婚パーティー
馬頭琴が草原の風のような旋律を奏でる。中央に深紅のモンゴル族の花嫁衣装に身を包んだ新婦と、モンゴル風に盛装した新郎。そしてモンゴル、ウイグル、カルムイク、ウズベク、アイヌ、日本…とさまざまな民族の人々が新婚カップルに祝福の拍手を送った。

三日午後、都内の東京芸術劇場大会議室で開かれたささやかな手作り結婚パーティー。さまざまな民族の若者が心をひとつにし、幸せを分かち合っていた。新婦は内モンゴル・フフホトから拓殖大学に留学のソヤラさん(二七)。新郎は東京大学大学院生の井出晃憲さん(三〇)。その他、この秋、都内で新婚生活を始めるウイグル、ウズベクなどの少数民族カップル八組の祝賀会も兼ね、テーブルには、モンゴルの結婚式料理の羊の丸ゆでや、ウイグル料理のプロフ(焼き飯)、稻荷寿司など各民族の仲間が持ちよった心尽くしの料理が並んでいる。モンゴルの馬頭琴演奏家で東京外語大の留学生、アスゲンさんや、ウイグルの弦楽器・ラワップ演奏家で東京芸大特別研究員のママット・ウメルさんらが伝統音楽を奏で、参加者皆が音楽に合わせて踊った。

「民族や宗教の問題が激しい戦闘の原因となっている地域もある、そんな問題をものともしないで互いの文化を理解し、結ばれるカップルがある。みんなが祝福をおくっています」と、幹事の少数民族文化交流活動団体・ユーラシアンクラブの大野遼事務局長。

祝福を受け井出さんも、「妻の名はモンゴル語で『文化』の意味。文化の日に結婚式を挙げ二人で新しい民族共生の文化をつくっていきたい」と語った。(福島香織・産経新聞11月4日夕刊 第2社会面)

杉山さん、お元気でしようが。長い間連絡しなくてすみません。

今月一日全国と同じくわたしたちの学校も始まりました。今年も子供が多くて大変です。学校に来る子供みんなは入学できないです。学校のキャパシティが小さいからですよね。杉山さん達からお金を頂きました。どうもありがとうございます。このお金でシンセイサイザー・テープ・プレイヤー・プリンターを買いました。今年学校で音楽サークルを始める予定です。ほんとにありがとうございます。これから音楽サークルが始まった後、写真・買った物のレシート・手紙を送ります。ユーラシアクラブのみなさま、とくに大野さん、井口さん達によりしくお伝えください。

それでは。

ビレグ



贈呈式にて 寄贈する杉山さん(右)と笑顔のビレグさん(左)

■元留学生チムールベクさんが来日

この8月、キルギスの元留学生チムールベクさんが、夏休みを奥さんのエルミラさんと過ごすため息子さんと来日しました。チムールベクさんは現在キルギスタン共和国の大蔵省で活躍されています。8月11日には一家三人を新宿の会議室に招待して歓迎会を催しました。また翌12日には、沼津在住のクラブ会員杉山さんのご好意により、一家三人は三島の水族館や温泉を訪ねました。

■寺澤潤世僧侶支援について

3月に開催された「チェチェン・シンポジウム」以来、これまでにクラブに寄せられたカンパは合計13万5千円に達し、市民平和基金より寺澤潤世僧侶あてに送金した旨の通知がありました。ご協力ありがとうございます。クラブでは、今後も寺澤僧侶とともにユーラシア各地の紛争地の問題について真摯に考えていくつもりです。寺澤僧侶から11月にジュネーブより手紙を頂きました。(以前の手紙や公開書簡を含め詳細はHPIに掲載)



前略…去る春の国連人権委員会での発言によってロシア連邦保安局のブラックリストにのせられて、ロシア入国が不可能となったのと機に、先ず沖縄サミットに訪日したブーテン大統領に公開書簡を呈した。夏に帰国した折には、再び日ロ首脳会談に居合わせ、森首相、ブーテン大統領にそれぞれ一書と呈し、首脳会談の間、赤坂の迎賓館の周囲と撃鼓堂今して御祈念した。

今回パリに入った折には、三度び、EU、ロシアサミットに居合わせ、フランスのチェチェン委員会と共に、国会でチェチェン戦争批判の記者会見に出席し、会期中断食祈念とつとめられた。首脳会談中のエリゼ宮殿と巡る御祈念では、二度進行されました。

二日目にはブーテン大統領の移動にあわせてパリ市内を祈念し、コンコルド広場のセヌ河岸を徐走するブーテン大統領の車の前で、次は上院議長の館の正面玄関で、さらにルーブル宮殿の前で、何の妨害もなく撃鼓唱題の音をさかむることができました。

シラク大統領とブーテン露大統領との共同声明は、EU、ロシア間の多層面の協力関係を挙げた内容であります。チェチェン問題においては「政治的解決以外に道はなく、そのためロシア、チェチェン間の政治的対話が緊急不可欠である」との一行がもり込まれた。この一行が生まれるまでに、すでに幾万の人命が殺され、国土は荒廃しつく、チェチェン成人男子の四割が死に、幾十万人が二度目の奇酷な冬の難民生活を強いられねばならなかった。春以来、私はただこの政治対話と実現せしむるために動きつづけてきたという過言ではありません。…一部略…

パリではユネスコ本部をたずねられた。ひとつは中央アジア平和の文化創造の運動の中心にシルクロード仏跡復興、ピースバゴダ建立を提言し、協力を要請することあります。もう一つは、ルンビニ宝塔落慶大祭と並行して、ネパール政府、ユネスコ、アジア仏教界と主催者として「二十一世紀の平和の文明の対話と非暴力世界のための宗教の協力」とテーマとする国際対話を提案することでした。

ユネスコ側は有無なく主旨に賛同されますが、具体化の推進はまったくの未定であるとは伝えられた。今の私には、これ以上ふみこむことはできる情勢ではありません。

今年残る一カ月、新世紀の元旦を何処で迎えるのか判断できません。雲山か清澄かでと望んでいます。おそろく年暮りぎりで決定することでしょう。

ただ模索する一年、試練につづ試練の年もすぎようとしています。激動の新世紀の幕開けはさけがたいでしょう。御法蓮をお祈ります。…後略

<会員消息>

■ウズベキスタン・サマルカンドの山本さんからの便り

ウズベキスタン・サマルカンドにて日本語教師をしている山本雅宣さんから、現地の状況やご自身の活動の様子を伝える手紙が届きました。



皆様お元気でしようか。ご無沙汰しております。サマルカンドの生活も一年が経ちました。授業中心でそれ以外のことができずに終わったこの一年でした。ながなか系統だったレポート・手紙というのがまとめてい一年でもありました。情報収集しながら企画、しかも指導という繰り返して、どこに結果があって、そして先の展望という



祝賀会の模様 新婦ソヤラさん(中央)と新郎井出さん(右から二人目)

<催し物情報>

■言語文化塾第2期生を募集中

受講した皆さまからご好評をいただいている「ユーラシア言語文化塾」。第2期のスタートに向けて新たに受講生の募集をしています。プログラムは以下のとおりです。ふるってご参加ください。

募集人員:各コース5~10人(コースごとに申し込み)

受講料:5回コース1万円、3回コース6千円(入金確認後受講決定)

開講時期は未定。お問い合わせ・お申し込みはクラブ事務局まで。

- I 口琴・喉歌編「大地からのメッセージ」(月・午後7時~9時)
- A)口琴編「口琴を弾く」:5回 B)喉歌・ホーミー編「喉歌を唄う」:3回
(講師:直川礼緒=日本口琴協会会長)
- II ウイグル編「ローマ字で学ぶウイグル会話」(火・午後7時~9時)
- A)「シルクロードのオアシス・やさしいウイグル語会話」:5回
B)「ウイグルの食文化とレシピ」:5回 C)「耳で聞くウイグル語」:5回
- III モンゴル編「ローマ字で学ぶモンゴル語会話」(水・午後7時~9時)
- A)「ローマ字で学ぶモンゴル語会話」:5回
B)「目で観るモンゴル語」:3回 C)「耳で聞くモンゴル語」:3回
- IV ウズベク編「ローマ字で学ぶウズベク語」(木・午後7時~9時)
- A)「民族の海・ウズベク言語文化塾」:5回
B)「耳で聞くウズベク語」:3回
- V アゼルバイジャン編(隔週土・午後3時~5時):5回

■親睦旅行計画のお知らせ

クラブでは現在、来年度の親睦旅行の計画を立案中です。現在のところ以下のコースを検討しています。詳細は追ってご連絡いたします。

・中央アジアウズベキスタンの遺跡巡りの旅 (クラブ名誉会長の加藤九祚先生がご案内します。) 来年5月連休に実施予定

・ウズベキスタン陶芸工房視察体験ツアー 来年夏・秋に実施予定

そのほか、以下のような旅行も検討しています。

- ・シベリア・サハ共和国の友人を訪ねる真冬体験プログラム
- ・アムール民族村の友人を訪ねるホームステイ・自然体験プログラム
- ・言語文化塾の講師・留学生を訪ねる塾の体験バージョン・ツアー

(各5~10人募集、年内にプログラム決定。詳細はクラブ事務局まで。)

<ユーラシア交流情報>

■バラムイギンさんがサハ共和国に帰国

これまでクラブでも大変お世話になった、在日サハ共和国(ヤクート)代表部首席のニコライ=バラムイギンさんが、7月31日に帰国されました。その前日には新宿のクラブ会議室でお別れ会を催しました。また、それに先立ち日本サハ協会主催による送別会も開かれ、それに出席したサハからの留学生ジーナさんが、送別会の様子やバラムイギンさんとの思い出などを綴ってくれました。なお、ジーナさんも9月末に帰国しています。



バラムイギンさんとはヤクーツク国立大学で初めて会いました。その時、彼は日本について色々な話をしてくれました。学生達はその話を面白く聞きました。「ええ、バラムイギンさんは若いですが、経験が豊富ですね。」と思いました。しかし、もっと親しく彼と彼の家族を日本で知りました。…一部略…

日本は初めての外国ですから、最初、様々なことに困っていました。その時、母語でのアドバイスやサポートなどが大切でした。バラムイギンさんはいつも電話で「ジーナ、元気ですか。日本語の勉強ははどうですか。生活はどうですか。困った所があるの?」というような質問してくれました。うれしかったです。…一部略…

ですから、多くの人達がお別れ会にやって来て、彼と彼の家族と時を過ごして、感謝やお別れの言葉を述べたのも当然です。…一部略…お客さんはわかるがわるバラムイギンさんに感謝の言葉を述べました。皆さん最初にニコライ=アンドレーヴィッチ(バラムイギン)さんと知り合ったときのことを覚えていて、冗談を言って笑ったり、写真を撮ったり、おいしい料理や飲み物をとったりしていました。彼と彼の家族のことを愛してくれる人達がこんなにもいるのだなあと思いました。そのとき、バラムイギンさん一家のこと、ヤクーツクと日本のことが大変誇らしく思えました。バラムイギンさんが帰国しなければならないのはとても残念なことです。けれども、彼はこれからの仕事のなかでも、日本とヤクーツクの友好関係をより強くより深くしていくことにベストを尽くすであろうと私は確信しています。 (詳細はHPに掲載)

■モンゴル子供発展センターに寄付

この8月に杉山一道さんをはじめクラブ会員数名がモンゴル国を訪れ、ウランバートルにあるモンゴル子供発展センターに文房具(総重量9.5kg)とカンパ(総額700ドル)を寄付しました。(昨年は文房具9kg設備改善費1,000ドルをクラブ会員加藤優幸さんの協力により寄付)元留学生でセンターの協力者であるビレグさんからお礼の手紙が届きました。(内容は次ページ)

また、ビレグさんからはその後に詳しい英文の手紙とレシートも届き、その中でセンターの新しい建物を建設したいという希望を表明され、さらに「フェルト計画」を開始したと述べられています。(詳細はHPに掲載)

が見えないウズベキスタンの社会・人々です。旧共産圏の発展途上国というのはアジア・アフリカなどと比べて少々手に負えない面があります。旧ソ連の負の遺産というのは民族の性格まで腐らしています。ソ連時代を知らない人々に国民がすべて変わったときに真のウズベキスタンの姿が見えるかも知れません。まあこのような辛口をいいながら外国人皆な、なんとかしてこの国を良くしようと働いています。…一部略…

サマルカントに日本人が3人しかいませんので日本に関する質問・相談がよく来ます。日本にウズベクの人が行っていますが、ほとんど招待・研修/留学生・政府関係者です。観光ヴィザ取得はほとんど問題なく取れます。現地の旅行代理店に依頼し、金があれば日本へ行くことができます。手続きは簡単ですが金がないだけです。それでも何人かは日本へ行って、そして働いているみたいです(不法就労でしょう)。その人たちの多くがサマルカントの人達らしいです。先に言った政府関係者はほとんどタシュケントの人達でしょう。サマルカント人の気質でしょうか。外へ出て活躍する昔からの血でしょうか。…一部略

夏休みの今、私はガイドをしています。昨年の人質事件の影響で、今年は日本人旅行者は少ないです。唯一の日本人日本語ガイドと言うことでそこそこ仕事は入っています。ガイド以外にも旅行社へ行って日本の旅行会社との通信・企画など手伝っています。この旅行業界にドブプリと没かってしまうと教師の仕事はできなくなってしまいます。いろいろなことが分かるのでおもしろい仕事ですが、バランスを取るのが難しいです。…一部略…

では本来の仕事、日本語教師でのテーマは何か。授業・カリキュラムを考えるのは毎日いくら考えても尽きることはありません。これは各教師と勤務している大学と一緒に考えていくものです。が、実際大学は何もしません。なぜここで日本語を教えているのか。自己満足にすぎない。実際そうです。我々がいなくなっても大学は困らないでしょう。日本語コースが無くなるだけです。でもこれを言ってしまうと終わりです。こういった「援助をもらい慣れている国(助けてくれて当然)」では、腹を立てずに自己満足でいいからプロジェクトに一つずつ取り組んでいこうと考えています。

日本語教育が始まったばかり、第2外国語か課外授業と言う枠でしかまだ教えることができない。こういった状況から、政府関係者や協力隊が教えている学校とは違う特色ある教育を作りたいと考えています。教師以外の経験からLONGTERMに考えて、ビジネス的な発想でいきたいと思っています。いろいろと反対も出てくるでしょうがまずやってみないと分かりません。先生しかしたことがない人とは違ったことをしたいです。

少数でいいから優秀な人材を育てたい。これは専門的に教えている機関での意見です。確かにそうです。が、サマルカントでは私は学ぶ皆、または地域に日本を紹介するのを目的としています。これはまだ

日本語が優秀でも働く場所、日本へ行く機会などが無い今の状態をかんがみでのことです。卒業後日本(語)を学ぶところがあれば日本へ行くチャンスも出てきます。生涯教育を目的にするのです。(ただしこの人達は結果がすぐでないことには全然興味を示さない。この民族性が問題です。)もちろんサマルカントでも優秀な人用に特別クラスを設けたりして育成する機関は作っていきます。…一部略…

まあこういった事を考え、9月からの新学年に準備をしています。定期的に連絡できるように努力していきます。皆様もお体に気をつけてお過ごし下さい。

敬具 7月20日 山本雅宣

(詳細はHPに掲載)

<他団体情報>

■日本サハ協会が解散

1995年11月の発足以来、日本・サハ間の親善・交流・相互理解増進に尽力してきた日本サハ協会が今年6月30日をもって活動を停止し解散しました。この間、日本におけるサハ事情の紹介や、サハ水害に際しての救援基金活動など有意義な活動を行ってまいりましたが、パラミギン在日代表部首席の帰国や、財政的に支えてきた「シベリア天然ガス株式会社」の解散などの諸般の事情により、解散が決定されたということです。

(日本サハ協会会報より)

■シルクロード倶楽部が忘年音楽祭

シルクロード倶楽部が、ウイグルのラフワップ奏者ウメル・メメット氏を中心に留学生の踊りや歌、芸能を楽しむシルクロード忘年音楽祭を開きます。

日時:12月30日(土)午後1時30分集合 2時開演~6時頃まで

場所:銀河高原ビル御徒町支店(JR山手線・御徒町駅下車ガード下)

会費:留学生)会員2千円 一般3千円 日本人)会員4千円 一般5千円

問い合わせ:TEL03-3815-7815 FAX03-3815-7816

E-mail:cct08190@syd.odn.ne.jp (担当:谷内口 俊則)

<クラブ短信>

■クラブのホームページ刷新に向けて

「ボイス・オブ・ユーラシア事業」発足に合わせホームページも年内に一新させます。現在、有志のメディア・グループがその任に当たっています。

■サポート会員・ボランティア会員を募集中

NPO法人化に伴い、クラブの会員規定も変更になりました。年会費1万2千円によって経済的に支えていただくサポート会員と、スタッフとしての活動でクラブを盛り立ていただくボランティア会員を随時募集中です。

発行:ユーラシアンクラブ 発行人:大野運 編集人:井出晃憲

2000年12月1日発行

住所:〒259-1206神奈川県平塚市真田743-21

電話:0463-50-3335 / ファクス:0463-50-3336

E-mail:PAF02266@nifty.com

Homepages:http://homepage1.nifty.com/EURASIANCLUB/